



ドキドキ

ドキドキ

ドキ

ドキ

ハチャ

ハチャ

ハチャ

ハチャ





















「ッ♡おおッ♡」
ご主人様のおっきいのきたッ♡♡

ッ♡

ッ♡

「私の卑しい穴、もうこれがないと
生きていけない体にされちゃったあ♡」

ん♡

ん♡

ハチャーン

ハチャーン

ハチャーン

ハチャーン



「おちんぽが子宮にズリズリ当たってるッ
んああ♡気持ちいいッ♡♡♡」

ズリズリ

ん♡

あ♡

「頭のとっぺんまでズビれちゃって
バカになりそうお♡♡」

ズリズリ

バチャンッ

バチャンッ

バチャンッ

バチャンッ



「ああんッ♡乳首い♡
んおっ♡はい、ちゃんと乳首だけでもイけるように
開発してきましたあ♡」

フウ

フウ

ん♡

ん♡

「ご主人様専用のオナホに、ふさわしい乳首になったでしょう♡」

スリ♡

スリ♡

ハチャメチャ♡



ハチャメチャ♡

スリ♡

スリ♡



「んほおおツ♡乳首カリカリきくう♡♡
これ、やばすぎて腰へっ止まんにやいっ♡」

フウッ

フウッ

「勝手に中出しおねだりしちゃうよぉ♡」

ん
♡

ん
♡

カリカリ♡
カリカリ♡
カリカリ♡

カリカリ♡
カリカリ♡
カリカリ♡

ハ
チ
ュ
ン
ッ

ハ
チ
ュ
ン
ッ



「えっ？他にどんなこととして乳首を弄ってたか？
あのえっと思いつき乳首を握って
ぐりぐり、こりこりってするのが好きです♡」

フム

フム

「ひとりの時も、ご主人様の指を思い出して
ずっといいじいじしてましたぁ♡」

ん♡

ん♡

カリカリ♡
カリカリ♡

カリカリ♡
カリカリ♡

バチュン♡

バチュン♡



「おほおおツ♡乳首イツ♡♡♡
これ好きッ♡大好きい♡♡」

エロ

エロ

「乳首とまんこ、両方から責められたらッ
狂っちゃうううッ♡」

お♡

お♡

コリ♡

コリ♡

ハチャシッ

ハチャシッ

コリ♡

コリ♡



「もっとお♡もっとな♡強く♡
ふぎゅう♡やべっ♡くう♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「私の♡乳首もっとな♡ちやくちやにしてえっ♡」

「あ♡」

「あ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「おおッ!! おっおっ♡乳首同士を擦り合わせるなんて!
素敵すぎますッ♡
ご主人様? もう出そうなんですわ!
私もいつでも射乳の準備できます!」

フウッ

フウッ

お♡

お♡

んぎゅ♡

バチュンッ

バチュンッ

バチュンッ

バチュンッ

「もちろん中出しオッケーなので来てくださいます♡
私の奥の奥まで、熱いので汚してえッ♡♡」



「はぁ♡はぁ♡いっぱい出ちゃいましたね♡」

♡♡♡♡♡

はぁ♡♡

♡♡♡♡♡

はぁ♡♡

「ご主人様の精液と私の母乳でびちゃびちゃ♡♡」



「え？明日からも毎日乳絞りしてくれるんですか？」

♡♡♡♡♡

はぁ♡♡

はぁ♡♡

♡♡♡♡♡

「ありがとうございますッ♡
今後立派なメス牛になれるように頑張ります♡
搾りかすになるまで使い倒してくださいね♡」

